

平成17年度琉球大学法科大学院入学試験問題（小論文）の問題文と答案の講評

【問題文】

ある自動車会社の作った自動車に、設計段階においてささいな欠陥があった。しかし、その欠陥は、事故を引き起こす種類のものではなく、放置していても何の結果も引き起こさないものであった。ましてや、リコールをするほどのものではなかった。また、会社の技術陣も、公表して、回収・修理をすべきではないという意見であった。

しかし、製品のささいな欠陥を公表するか否かについて、会社の首脳の間では意見が分かれた。事故も起こさず、リコールをするほどの欠陥ではないから、社会的に公表することは、企業イメージを悪くして、会社の利益にならないとの意見が、まず主張された。これに対して、たとえ事故に結びつかないささいな欠陥といえども、公表して社会的責任を明確にするのが企業のあるべき姿であり、また、そうすることがかえって企業イメージを上げる、との主張がなされた。

あなたが会社首脳の地位にあるとして、事故に結びつかないささいな欠陥を公表すべきか否かについて、どちらかの立場に立ち、どのようなことが問題となるかを指摘した上で、反対の立場に批判を加えつつ、自説を展開しなさい。

【答案の講評】

求められている解答は、「あなたが会社首脳の地位にあるとして、事故に結びつかないささいな欠陥を公表すべきか否かについて、どちらかの立場に立ち、どのようなことが問題となるかを指摘した上で、反対の立場に批判を加えつつ、自説を展開しなさい。」である。

まず、事故に結びつかないささいな欠陥を公表すべきか否か、どちらの立場に立つか、鮮明にする必要がある。そのうえで、各々の立場に立てば、どのようなことが問題となるかを指摘しなければならない。さらに、自分が立った立場と反対の立場に批判を加えつつ、自説を展開しなければならない。解答をする際には、これだけの要求を満たさなければならない。

ところが、受験者の答案の中には、どちらの立場に立つかは鮮明にしたものの、問題となることを指摘しないものが見受けられた。さらに、反対の立場に批判を加えることを忘れて、自説のみを展開した答案も見受けられた。問題文が何を要求しているか、的確に理解していないのではないのか、と思われる答案が見受けられたのである。問題文が何を要求しているのか、何を書かなければならないのかは、すべての試験に通じる大原則である。

また、一期生と比べて、文章力が一般に低いことが見受けられた。受験生の平均年齢が一期生よりも低かったことが作用しているのかもしれないが、文章力は法曹の第一の資質

である。論理的思考ができずに、途中で論理が破綻している答案も見受けられた。すばらしい答案も見受けられた中で、問題のある答案も見受けられたのは残念である。

琉球大学大学院法務研究科